

仲間と関わり、社会に積極的に参加できる児童の育成 - 自立活動の時間における「かかわりたいむ」と「かがやきたいむ」を通して -



特別研修員 特別支援教育 吉田 律輝 (小学校教諭)

児童の実態

自立活動の区分「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」等に主な困難がある。
・初めての活動では緊張して固まってしまう。
・慣れない人に対して関わり方が分からず、消極的になる。
・適切な言葉や方法でやりとりをすることが難しい。

教師の願い

・安定した気持ちで、仲間と適切に関わる中で、よい人間関係を築いてほしい。
・仲間から頼られたり、褒められたりすることで、人と関わる自信をつけてほしい。

手立て 1

仲間との関わりやコミュニケーションを伴う集団活動「かかわりたいむ」
・児童の好きな活動をベースに、各児童の自立活動の目標に関わる活動内容を取り入れる。
・児童同士が過度な負担なく関われるよう、児童自身が関わる相手を決めるなど、自己決定できる場面を増やす。

手立て 2

互いのよさを認め合う活動「かがやきたいむ」
・「かかわりたいむ」を通して感じた仲間のよかったところやがんばったところなどを、「かがやきカード」をホワイトボードに貼ることで伝える。

成果

・「かかわりたいむ」で仲間と関わる成功体験を積み重ねたことで、その他の学習・生活場面でも安定した気持ちで過ごしたり、仲間と仲良く過ごしたりすることができるようになってきた。
・自ら特別支援学級以外の仲間と関わったり、交流学級で積極的に活動に参加したりする場面が多く見られるようになった。

課題

・「かがやきたいむ」で教師の介入を減らして、児童同士が直接よさを伝え合えるようにしたい。
・手立て1や手立て2と同じような活動を交流学級でも行い、交流学級の中で積極的に仲間に関わったり、交流学級の活動に積極的に参加したりできるようにしていきたい。

自立活動：第1, 3, 6学年 あんしん・あんぜん大作戦～なかよし人生ゲーム～



交流学級、クラブ・部活動、委員会など
学校生活全般への積極的な参加 → 職場、地域、同好のコミュニティなど
積極的な社会参加へ